

「学術情報基盤に関するアンケート」に寄せられた図書館への質問・要望への回答

分類	質問・要望	回答
資料の充実	現在、琉球大学で閲覧可能な電子ジャーナルや書籍のリストアップをしていただきたい。	琉球大学で閲覧可能な電子ジャーナル・電子書籍の一覧は、電子リソースポータル（ <a href="https://sg3jk3se8d.search.serialssolutions.com/">https://sg3jk3se8d.search.serialssolutions.com/</a> ）で閲覧可能です。タイトルやISSN・ISBNでの検索、アルファベット順・五十音順でのリストも利用可能ですので、ぜひご活用ください。
資料の充実	各部署によみたいがよめないジャーナルについての調査を行なっていただき、さらなるジャーナル閲覧へのアクセスを広げていただきたい	今回実施した調査に基づき、今後の方針等の検討を行う予定です。ご要望いただいた調査については、必要に応じて実施を検討いたします。
資料の充実	全てのリクエストを受け付けてほしい。大学で購入できない場合は、購入費を支援してほしい。	ご意見ありがとうございます。図書のリクエストについて、リクエスト対象外としているもの以外は概ね購入しております。案内ページ（ <a href="https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/guide/for-student/page-68/#request">https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/guide/for-student/page-68/#request</a> ）もご確認ください。
資料の充実	電子ジャーナル契約のチケット制への転換で経費が削減できるのならば、チケット制への転換を拡大してほしい（定額制よりも合理的だと考えられるため）	ご意見ありがとうございます。出版社によっては、チケット制を提供していない、チケット制では本学では早々に破綻することが予想されるといったこともあります。利用状況等を踏まえて、本学にとって最も合理的な判断が可能となるよう情報収集を行います。
資料の充実	不満はないが、例えば大学コンソーシアム沖縄の加盟校間で購入する図書・雑誌を分担するような取り組みをして、沖縄県内の高等教育のレベルを落とさずに経費を削減する方策の検討ができるとよいと思う。	ご意見ありがとうございます。大学ごとに収集方針や教育・研究分野により必要とする資料が異なること、利用頻度の高い基礎的な資料については複数大学で備える必要があることから、分担購入の実施は難しいかと思われます。なお、県内大学間では、直接来館し、無料で図書を借用することができます。図書館カウンターにて借用願の手続きが必要です。詳細は図書館ウェブページ（トップページ>利用ガイド>学生の方へ または 教職員の方へ>琉球大学に必要な資料がなかった場合）をご参照ください。 今後も相互利用の範囲については、検討を行って参ります。

分類	質問・要望	回答
資料の利用	自分で情報を検索するためのツールや支援（pdf資料等）が充実していると嬉しいです。	ご要望ありがとうございます。レポートを書くための基礎知識、著作権と引用について、琉球大学のネットワークなどの情報基盤の使い方、図書館を活用した資料収集の方法等を記載した「情報リテラシーガイドブック」（ <a href="https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/support/literacy/">https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/support/literacy/</a> ）を毎年発行しているほか、大学院生がレポート作成のポイントや自身の専攻分野の勉強法などをまとめた学修ガイド「先輩からのアドバイス」（ <a href="https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/support/from-seniors/">https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/support/from-seniors/</a> ）、資料の検索方法などをまとめた「ステップアップガイド」（ <a href="https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/support/search/">https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/support/search/</a> ）等、図書館ウェブサイトの「学修サポート」にご用意しておりますので、ぜひご活用ください。また、ラーニング・サポートデスクでの学修相談も実施しておりますので、併せてご活用いただけますと幸いです。
資料の利用	Pub Medの閲覧制限がかからないようにしてほしい。	特定のネットワークから、PubMedにアクセス出来ないという事象でしょうか。アクセス制御は、ネットワークの運用・セキュリティポリシー等に基づいて実施されておりますので、当該ネットワークの管理者にご要望いただけますと幸いです。閲覧制限という単語の意味をくみ取れていない場合や、接続しているネットワークが分かれれば、異なる対応もとれるかもしれませんので、情報支援係（tkjosi@acs.u-ryukyu.ac.jp）にご相談ください。
資料の利用	普天間キャンパスに移転後の医学部附属図書館の場所や利用方法が不明なので、周知して欲しいです。	ご意見ありがとうございます。移転後の附属図書館医学部分館について、周知・広報が足りておらず申し訳ありません。移転時に図書館Webサイトでお知らせ（ <a href="https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/info/17335/">https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/info/17335/</a> ）を掲載していましたが、引き続き、分かりやすい広報を検討します。併せて、学生証アプリや図書館X等のSNSでの周知も行います。

分類	質問・要望	回答
資料の利用	大手の国際学術出版社の電子版について、閲覧できないものがますます増えてきて不便を感じるようになった（Nature-Springerなど）	ご意見ありがとうございます。限られた経費のなかでの整備となりますので、全てのニーズにお応えできず申し訳ありません。ただ、大手の国際学術出版社について、Elsevier、Springer Nature、Wileyについてはある程度包括的なアクセス契約を締結しております。ご希望のものが契約範囲外である可能性もありますが、具体的なジャーナル情報等お知らせいただけましたら幸いです。
資料の利用	Japan Knowledge（ジャパンナレッジ）の同時アクセス数を増やしてほしい。全学で同時に1人のみ閲覧可能という現状では、研究・教育上の利用に差し支えている。	ご意見ありがとうございます。予算や利用統計情報等を踏まえて、アクセス件数については検討を行います。 制約等がありますが、Japan Knowledgeの講習会として利用する場合に同時利用回数を一時的に増やすことが出来ます。必ずご要望にお応えできるとはお約束できませんが、資料サービス係（tssiryo@acs.u-ryukyu.ac.jp）にご相談ください。

分類	質問・要望	回答
資料の利用	<p>各研究室で所有している書籍について、利便性の向上、もしくは不要になった場合などに受け入れいただけるようなシステムがあればよいと思う。</p>	<p>ご要望ありがとうございます。各研究室で所有されている書籍に関するご提案について、以下の通りご説明いたします。</p> <p>1. 「利便性の向上」について      図書館を通して購入され、大学の備品として登録されている図書につきましては、研究室での利用に支障がなく、また貸し出しが可能であれば、利用者の皆様が各研究室から取り寄せてご利用いただける仕組みがございます。      「MyLibrary」の「他機関から資料を取寄せ」メニュー「新規貸借依頼」からお申込みください。その際、「連絡事項」に研究室の図書を貸出希望である旨ご記入をお願いします。      もし、この点以外に「利便性の向上」について具体的なご要望がございましたら、ぜひお聞かせいただけますと幸いです。具体的な内容をご提示いただくことで、今後のサービス改善に向けた検討に役立てることができます。</p> <p>2. 「不要になった場合の図書の受け入れ」について      研究室に所蔵されている図書は、大きく分けて以下の2種類があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・備品として登録されている図書（図書館を通して購入されたもの）        →大学の資産ですので、不要になった際は原則として図書館に返却をお願いしております。返却手続きについては、図書館資料サービス係（西普天間キャンパスは医学情報係）にご相談ください。</li> <li>・私物の持ち込みや寄贈によって研究室に置かれている図書        →返却の義務等はありませんが、図書館へ寄贈いただくことは可能です。しかしながら、既に図書館に所蔵されている資料や汚損や破損があるものにつきましては、受入できない場合もあります。        寄贈をご希望される場合は、事前に図書館図書雑誌情報係（西普天間キャンパスは医学情報係）にご相談いただけますようお願い申し上げます。現物を確認させていただき、受け入れの可否についてご連絡させていただきます。</li> </ul>

分類	質問・要望	回答
資料の利用	学生への沖縄資料の貸し出し（現在不可）	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>沖縄資料室（閉架）資料の学生への貸出に関するご要望と解釈し、回答いたします。</p> <p>沖縄資料室（閉架）の資料は、保存のために収集しております。</p> <p>沖縄関係資料は、貴重な資料が多数あります。元々の発行数が少ない、非売品等の理由から再購入が不可能なケースが多いです。</p> <p>例外的に本学教職員への館外貸出を行うことはありますが、館内利用を原則としております。</p> <p>なお、沖縄資料室（閉架）の資料につきましては、申請を行うことで館内でご覧いただくことが可能です。</p> <p>ご要望にお応えできず恐縮ですが、館内利用へのご協力を願いいたします。</p> <p>また、沖縄関係資料は可能な限り複本を購入し、沖縄開架資料室にて利用できるようにしております。この部屋の図書は館外貸出可能ですので、併せてご利用ください。</p>
資料の利用	判例秘書アカデミック（図書館経由で申し込みをして、個人研究費等で支払ってでもいいから契約したい）	大学としての導入については、委員会等での議論が必要となります。また、経費の制約もあり、すぐに対応をとることは困難です。個人研究経費での契約については、Kindleなどの電子書籍と同様に対応出来る可能性がございますので、学部事務にご相談ください。
文献の取り寄せ	ILLで紙媒体ではなく電子媒体での入手ができるとよりよい（類似意見複数あり）	<p>ご要望ありがとうございます。ILLにおける電子媒体での提供は、利便性が高く、当館もその需要は認識しています。</p> <p>しかし、現行の著作権法では、図書館における文献複写は「紙媒体での提供」が前提となっており、ILLで入手した資料を電子データで希望者へ直接送信するのは、現時点では困難な状況です。</p> <p>当館としましても、今後の法改正や技術の進展を注視し、より良いサービス提供に努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。</p>

分類	質問・要望	回答
文献の取り寄せ	<p>他機関から書籍や雑誌のコピー入手する際の金銭的補助（個人的に機会は少ないので回数制限があつても問題ない）</p>	<p>ご要望ありがとうございます。他機関からの資料複写・貸借に関する費用補助については現状では予算措置がないため、現時点ではご期待に沿いかねる状況です。</p> <p>しかしながら、いただいたご意見は真摯に受け止めており、館内でも、ILL（文献複写・現物貸借）に関する費用支援の可能性について、検討を開始しております。</p> <p>実現をお約束できる段階ではありませんが、利用者の方々にとってより使いやすいサービスを提供できるよう、検討を進めて参ります。</p>
文献の取り寄せ	<p>ILLで様々な国から資料の取り寄せできるようにしてほしい。抽象的ですが、沖縄という立地が多様な研究に対してデメリットにならないようにしてほしい。</p>	<p>ご要望ありがとうございます。</p> <p>現在、海外からのILL取り寄せサービスとして、以下の取り組みを行っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイ大学マノア校図書館との連携 ILLサービスに関する覚書を締結しており、複写物の無料取り寄せや、図書資料の返送料のみでの相互貸借が可能です。</li> <li>・IFLAバウチャーを利用した取り寄せ 国際図書館連盟（IFLA）が提供する「IFLAバウチャー」を利用した取り寄せが可能な場合があります。個別に対応いたしますので、必要に応じてご相談ください。</li> <li>・British Libraryの複写サービス 現在、サーバー攻撃のためBritish Libraryの複写サービスは休止となっていますが、復旧後には再度利用を再開する予定です。</li> </ul> <p>沖縄という地理的条件が研究活動の妨げとならないよう、海外からの資料取り寄せサービスを充実させていくことは、当館の重要な使命であると考えております。引き続き利用者の方々にとってよりよいサービスを提供できるよう、他のサービスについても導入を検討して参ります。</p>

分類	質問・要望	回答
オープンアクセス	琉球大学学術リポジトリでのオープンアクセスに関する情報を詳しく提供して欲しい。例えば、どのような手続を行えば機関リポジリでOA化可能なのか?公的な研究費による成果はOA化が必須となるよう中で、国内学術誌では、その雑誌はOAではないが、機関リポジトリは許可しているグリーンオープンアクセス誌もあるので。	ご要望ありがとうございます。 琉球大学研究者情報データベースへ業績情報を登録される際に、琉球大学学術リポジトリへの登録に関する設定項目がありますので、そちらを入力ください。あわせて、リポジトリで公開用のファイルを添付いただけますようお願いいたします。全体的な流れなどは以下でご案内しております。 <a href="https://u-ryukyu.repo.nii.ac.jp/registration">https://u-ryukyu.repo.nii.ac.jp/registration</a> 著作財産権の所在などにより、リポジトリで公開できるタイミングや論文の版などはさまざまです。そのような条件は、担当側でも確認を行いますので、ご不明な点はご相談ください。(担当:repo@acs.u-ryukyu.ac.jp)
オープンアクセス	オープンアクセスを商売としているいわゆるハゲタカジャーナルもあります。オープンアクセス化を進める場合は、そのような出版社の利益にならないような方策も必要と考えます。投稿を推奨しないジャーナルの情報を周知してはいかがでしょうか。奈良先端科学技術大学院大学のサイト <a href="https://www.naist.jp/kensui/information/predatory-journals.html">https://www.naist.jp/kensui/information/predatory-journals.html</a> は良くまとまっていると思います。	ご意見ありがとうございます。図書館のウェブサイトで以下のページを作成しました。図書館からも定期的に注意喚起を行っていきます。 適切な論文投稿先を探すには:ハゲタカジャーナルに投稿しないために ( <a href="https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/journal_recommendation/">https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/journal_recommendation/</a> )
オープンアクセス	OAが求められるのであれば、費用の裏付けとなる合理的な支援が必要。投稿する段階で支援が見込まれる/保証される形でないと、そもそもAPCが必要な雑誌に投稿できない。「即時OA」推奨でなければ、Green OAを選択するようにしてゆきたい。	ご意見ありがとうございます。日本の政策的にも、琉球大学としてもオープンアクセスについては推進しております。一方で、必ずしも出版社にAPCを支出することが求められている訳ではありません。ご認識のとおり、琉球大学学術リポジトリによるGreen OAも認められておりますので、ご検討ください。当該の情報については、以下にまとめております。 <a href="https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/sokujioa/">https://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/sokujioa/</a>
システム	琉大図書館のOPACでOpenURLを利用できれば便利だと思う	ご希望の利用が可能かは判断出来ませんが、OPACでOpenURLの利用は可能です。例えば、 <a href="https://opac.lib.u-ryukyu.ac.jp/opc/xc/search/?keys={{検索語}}">https://opac.lib.u-ryukyu.ac.jp/opc/xc/search/?keys={{検索語}}</a>
その他	論文内に使用する画像などについて、著作権を申請する必要がある場合の手続きを支援する窓口を開設して、手続きを代行して欲しい。	すぐにそのような支援を行うことは困難ですが、ご要望をお寄せいただきありがとうございます。